



⑰ 郭巨



⑱ 楊香



⑲ 山谷



⑳ 王祥左
㉑ 孟宗右



㉒ 王裒



㉓ 唐夫人



㉔ 大舜



財やちよ

財市八
通文千
信化代
No.9
2023.9.1
(令和5年)

特集 飯綱神社の文化財②

前回に引き続き、萱田にある飯綱神社にある指定文化財の市指定文化財「飯綱神社玉垣彫物」をご紹介します。飯綱神社玉垣彫物は本殿の周りを囲む玉垣に施されている彫刻で、昔の中国で親孝行であった人々である「二十四孝」をテーマとしています。玉垣にはめ込まれた彫物は25枚ありますが、2か所の扉とその上の欄間には波や花を彫り込んだものもあり、「二十四孝」の話ではないものもあります。一枚の大きさは縦39cm、横176cmあり、北西隅の2枚と扉の4枚だけは小さいものです。製作年代は不明ですが、作者は「下総州香取郡 彫物工 竹内山幸」と彫物の裏側に刻まれていることから、竹之内村（現在の香取市）の山中幸右衛門という人が作者であることがわかります。彼は18世紀末に活躍した彫物師ですので、この時期に作成されたものと思われます。「二十四孝」の内容は以下のとおりです。

- ①老萊子（ろうらいし）
70歳になった老萊子は年老いた両親を喜ばせるために、わざと派手な格好で子どものような振る舞いをし、親が年を取ったと悲しまないように配慮した。
- ②田眞・田廣・田慶（でんしん・でんこう・でんけい）
三兄弟が親の残した財産を三等分し庭に生えていた木までも3等分しようと夜通し話し合いをしていたが、明け方庭を見てみると木が枯れていた。田眞はこれを見て「草木にまで心があり、切られると聞いて枯れたのであれば人間もこれをわかまえるべきである」として木を切らずにいたら、再び花を咲かせるようになった。
- ③丁蘭（ていらん）
丁蘭は母が亡くなると、母の死を悼み、母の形の木像を作り、生きている時と同じように接した。ある日、妻が木像の顔を焦がしてしまふと、木像は腫れて血を流した。二日経つと妻の髪が抜け落ちてしまった。丁蘭は木像を大通りに移し、妻に3年間詫言をさせると、一夜のうちに雨風の音がして木像は元の位置に戻った。
- ④刺子（えんし）
刺子は年老いた両親が目病を患い、目の病に聞く鹿の乳を欲しがっているのを知ると、鹿の格好をして鹿の群れの中に紛れた。そこにいた猟師が本当の鹿だと思い弓で射ようとしたが、刺子は猟師に経緯を話すと、猟師は感心して無事に帰ることができた。
- ⑤曾參（そうしん）
曾參が山に薪を取りに行っている時に、家に友人が訪ねてきた。母はこれをもてなそうとしたが家が貧しくもてなすことができなかった。「曾參よ帰って来ておくれ」と願う母は指をかむと、曾參は妙に胸騒ぎがしてすぐに家に戻った。
- ⑥朱壽昌（しゅじゅしょう）
朱壽昌は7歳の時に母と生き別れ、そのことを50年嘆き悲しんでいた。ある日、朱壽昌は役人であったが、母に会う為に職、妻子を捨て、自らの血でお経を書き、天に祈っているついに母に会えることができた。
- ⑦庚黔婁（ゆきんろう）
庚黔婁はある地方の役人となっていたが、十日も経たぬうちに胸騒ぎがしたので、父が病気ではないかと思い、仕事を辞め実家に帰ると案の定父は病気を患っていた。医師に病状を尋ねた所、病人の大便を舐めてみて甘いか苦いかでわかるだろうと聞き、実際に舐めてみると苦かったので父の死が近いことを悟り、北斗七星に父の身代わりになるように祈り続けた。
- ⑧董永（とうえい）
董永は幼い時に母と別れ、家も貧しく、人に雇われ生活していた。父も足が悪かったため、父を小さな車に乗せ、田の畔において養っていた。そして、父が亡くなると葬式を挙げようと思ったが、お金が無かったため、わが身を売って葬式を挙げた。ある日、お金の貸主の所に行く途中、美女に会いその美女と結婚した。その美女は上質な絹を織ると、お金の貸主に届けた結果、董永はその身を許された。その後、妻は「私は天の織姫であなたの親孝行さに感じ入り、天が私にお命じになりました」と告げて天へと帰っていった。
- ⑨蔡順（さいじゆん）
蔡順は母の為に桑の実を拾い、熟した実と熟していない実を分けていた。その時、盗賊が現れ、なぜ桑の実を2色に分けるのかと蔡順に聞くと、「熟している実は母の為に、熟していないものは自分の為のものです」と答えた。これに感心した盗賊は、米と牛の脚を与えた。
- ⑩黄香（おうきょう）
黄香は母を亡くし、父に良く仕えていた。夏の暑いときには枕やすを扇いで涼しくし、冬の寒いときには父の布団の冷たいことを心配して、自らの体で布団を温めた。
- ⑪陸績（りくせき）
陸績は6歳の時に袁術の所に行った際、袁術は蜜柑を陸績に与えた。陸績は蜜柑を3つ取って袖に入れて帰る際に袁術にお礼を言おうとした時に袖から蜜柑がこぼれ落ちた。これを見た袁術は「あなたは幼いのに泥棒のような真似をする」と言った所、陸績は「あまりに見事な蜜柑なので母の為に持って帰ろうとしました」と答え、袁術はとても感心した。
- ⑫漢文帝（かんぶんてい）
漢の文帝は母の食事を出す際には、必ず自ら毒見をして出していた。
- ⑬閔子騫（びんしけん）
閔子騫は幼い時に母を亡くし、父は後妻を娶って二人の兄弟が産まれました。この母は我が子のみを可愛がり、閔子騫には粗末な衣類を与えていました。父は寒さに震えている閔子騫を見て、母と離婚しようと思いますが、閔子騫は「母がいなくなれば三人の子が寒い思いをしますが、私一人我慢していれば、弟二人は寒い思いをすることもないので離婚しないでください」と言った所、母も感じ入って、閔子騫に優しく接するようになった。
- ⑭張孝・張禮（ちようこう・ちようれい）
張孝と張禮の兄弟は、年老いた母を養っていました。飢饉の際に、木の実を拾いに行った所、盗賊が現れ張禮を殺して食べようとした。張禮は「今日はまだ年老いた母が食事をしていないので少く時間下さい。母に食事をさせた後にすぐに戻って来ます。もしこの約束を破れば一家全員殺して下さい」と言って、母に食事を与え、盗賊の所に戻っていった。兄の張孝はこれを見て、張孝の後に盗賊の所に行つて「私は弟より太っているので、私を食べた方がよいでしょう」と言った。張禮は「これは私の最初の約束なので、私が食べられます」と言ってお互いに譲らなかった。それを見た盗賊も兄弟の孝行心に打たれ、二人の命を助け、米と塩を与えた。
- ⑮姜詩（きやうし）

姜詩の母は常にきれいな川の水を飲み、また新鮮な魚が食べたいと思っていた。姜詩と妻はこの母の思いに応え、遠い所から水を汲み、魚を母に与え、孝行していた。するとある日、姜詩の家の目の前に突然きれいな川の水が流れ、朝ごとに鯉がとれるようになった。

⑤ 呉猛 (ごもう)

8歳の呉猛は、家が貧しく蚊帳を買う金も無かったので、親が蚊にさされないように自分の着物を親に着せ、自分は裸になって蚊に刺され続けた。すると蚊も呉猛だけを刺し、親を刺す事は無くなった。

⑥ 郭巨 (かくきょ)

郭巨は貧しかったが、母を養い、妻に子どもが産まれ3歳になった。母は孫を想い、孫に自分の食事を分け与えていた。郭巨は妻に「我が家は貧しく母の食事さえも不足しているのに、それを孫に分け与えていては、母の食事はとても足りない。夫婦であれば子はまた授かるだろうが、母親は二度と授かることはない。この子を埋めて母を良く養おう」と言った。妻は悲しんだが夫の命に従うよりなく、子を連れ埋めに行った。郭巨が涙を流しながら地面を少し掘ると黄金の釜が出てきて、その釜には「孝行な郭巨に天からこれを与える」と書かれていた。郭巨と妻は黄金の釜を得て喜び、子と一緒に家に帰って更に母に孝行を尽くした。

⑦ 楊香 (ようきょう)

ある日、楊香と父が山に入っていると、虎が現れた。楊香は何か父の命を守るために虎を追い払おうとしたがどうにもならず、天に「私の命はどうなっても良いので、父を助けてください」と祈った所、虎はどこかに行ってしまう、父子共々助かった。

⑧ 山谷 (さんこく)

山谷は詩人の祖と言われるような人で、たくさんの使用人を抱え、妻もいたが自ら母の大小便の便器を取り扱って、汚れた時にはこれを自らの手で洗い、朝から晩まで母に仕えていた。

⑨ 王祥 (おうしょう)

王祥は幼い時に母を亡くし、父は後妻をもらった。継母からはひどい扱いを受けましたが恨みもせず、継母にもよく孝行をした。冬の極寒の際に母が「生魚を食べたい」と言うので王祥は魚を獲りに川に行ったが、冬だったので川は氷が張っており、魚を獲る事ができなかった。衣服を脱ぎ氷の上に伏し、悲しんでいると、氷が少し溶けて魚が二匹出て来て、それを持って帰り母に与えた。

⑩ 孟宗 (もうそう)

孟宗は幼い頃に父を失い、母を養っていた。母が年をとると、あれやこれやと食べ物を欲しがるようになった。母がある冬に竹の子が食べたいと言いだしたので、孟宗は竹林に行ったが、雪深く竹の子が得られるはずもありません。天に祈りながら、竹に寄り添っていると、にわか大地が開けて竹の子がたくさん生えてきた。喜んでそれを持ち帰り、母に与えると病氣も治り、長生きすることができた。

⑪ 王褒 (おうほう)

王褒は母が生前雷を怖がっていたので、その死後も雷が鳴ると母の墓に急ぎ駆けつけた。

⑫ 唐夫人 (とうふじん)

唐夫人は、姑に歯が無く食事ができないので姑に常に乳を与え、毎朝髪を梳る等、良く仕え数年が経った。ある日、姑が死期を悟り家族に言うことには「唐夫人の恩に報いず死ぬのは心残りだ。唐夫人の孝行をまねるならば必ず子孫も繁栄するだろう」と言った。

⑬ 大舜 (たいしゆん)

大舜は孝行な人間で、父は頑固で、母はひねくれもので、弟は騙った人間であった。それでも大舜はひたすら孝行を続けていた。ある時、大舜が田を耕していると、彼の孝行に感じ入り、大きな象が来て田を耕し、鳥が飛んできて草を抜き、耕作の手伝いをした。その時の天子の堯はその孝行さを耳にし、娘を娶らせ、ついには天子の座までも大舜に譲った。



⑤ 曾參左 ⑥ 朱壽昌右



⑦ 庚黔婁



⑩ 黄香



⑧ 董永左 ⑨ 蔡順右



① 老莱子



⑪ 陸績左 ⑫ 漢文帝右



② 田真 田廣 田慶



⑬ 閔子騫



③ 丁蘭



⑭ 張孝 張禮左 ⑮ 姜詩右



④ 刻子



⑬ 吳猛